

平成30年6月7日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16629

研究課題名(和文)中国古代思想の生成論に関する基礎研究

研究課題名(英文)Basic study about generation theory of a Chinese ancient thought

研究代表者

西 信康(NISHI, NOBUYASU)

北海道大学・文学研究科・専門研究員

研究者番号：30571062

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、郭店楚簡『太一生水』の生成論について、その概念と表現形式に関する分析を進め検討した。まず、生成論という話題において「太一」「水」といった概念が言及される理由を解明した。次いで、『太一生水』第八号簡に見える「天」「地」「神」「明」「陰」「陽」「四時」「歳」といった概念についてその意味内容を説明し、併せて第八号簡を境とする表現形式の相違に着目し、そこに込められた思想的意味を解明した。

研究成果の概要(英文)：In this study, I discussed Tai-yi-sheng-shui (太一) on Chu' bamboo slips from Guo-dian (郭店), elucidating Generation theory by reconsidering concept and style. I consider why the concepts of Tai-yi (太一) and water (水) are referred to in the Generation phenomenon. I also explain the concepts of tian (天), -di (地), shen (神), -ming (明), yin (陰), -yang (陽), four seasons (四時), cold (冷), hot (熱), wet (濕), dry (燥), and year (歳). Lastly, I analyze the styles of the No 8 bamboo slips and explain the differences before and after these slips.

研究分野：中国古代思想

キーワード：中国古代思想 道家思想 生成論 出土資料

1. 研究開始当初の背景

本研究は、万物の生成変化に関する生成論について、中国古代思想における展開の様相を解明する。研究開始当初の背景は次のとおり。

古代中国の生成論に言及した体系的、通史的な大作として先ず取り上げるべきは、

ジョセフ・ニーダム著・東畑精一・藪内清監修『中国の科学と文明』（第二巻、思想史上、思索社、1974）第10章「道家と道教」、山田慶児『朱子の自然学』（岩波書店、1978）である。また、中世全体を考察の対象としたものに、山田慶児「中世の自然観」（藪内清編『中国中世科学技術史の研究』角川書店、1963）、藪内清「中世科学技術史の展望」（同上）、村上嘉実「周易参同契における同類の思想」（山田慶児・田中淡編『中国古代科学史論』京都大学人文科学研究所、1991）がある。

次に、戦国秦漢期の道家思想の生成論について。我が国の研究で先ず取り上げるべきは、津田左右吉「老子」の思想とその淵源」（『津田左右吉全集』第十三巻、岩波書店、1964所収）、武内義雄『老子原始』（『武内義雄全集』第五巻、岩波書店、1978所収）、平岡禎吉『淮南子に現われた気の研究』（漢魏文化学会、1961）、福永光司「道家の気論と『淮南子』の気」（小野沢精一他編『気の思想 中国における自然観と人間観の展開』（東京大学出版会、1978）第三章第一節である。これらは、『周易』『老子』『莊子』『呂氏春秋』『淮南子』といった諸文献に見える「道」「太一」「太極」といった概念について、その関係性を整理する基礎的研究を展開している。その中でも、西（本研究代表者）は「道が太初の渾沌を指すものであっても分化した後の万有に存する理法であつてもよいのは、……宇宙論も歴史的見解も、自然の理法に対する観察も、「老子」の主とするところではないのである（津田

p97）という指摘が極めて重要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、万物の生成変化に関する生成論について、中国古代思想における展開の様相を解明する。活用する資料は、世代を超えて今日まで伝わる伝世文献と、新たに発掘された出土資料との二種類である。これら二種類の資料を活用することで、出土資料の思想を伝世文献により得られた従来の思想史に位置づけて解釈し、その思想的特徴を解明する。併せて、出土資料の解釈によって得られた知見をもとに、従来の研究が古代中国の生成論に対して想定する一般的な問題意識を批判的に反省する。各資料の新解釈という個別的な成果とともに、思想史研究における解釈学的批判を展開する。

3. 研究の方法

世代を超えて今日まで伝わる伝世文献と、新たに発掘された出土資料との二種類の資料を活用し、上記課題に取り組む。資料収集、研究発表をとおして、これらに関する論文を執筆し公開する。

4. 研究成果

本課題では、次の2件の研究成果を得た。

(1) 郭店楚簡『五行』と諸子思想

本研究は、一九九三年に中国湖北省で発掘された郭店楚簡『五行』（以下郭店『五行』）を研究対象とする。この竹簡資料は、その公開当初から、『孟子』や『禮記』中庸篇との思想上の類似が数多く指摘された。そのため、郭店『五行』の研究において、いわゆる思孟學派の思想史を構築することは、現在でも研究者に幅廣く共有された關心事と言える。

これに對し西はかつて、竹簡に付された符號に着目し、『五行』が計三つの段に分かれることを指摘した。その上で、各段の思想的特徴をその構造的特徴に即して把握し、それぞれを専心内形論、聖智論、尊賢

論と名付けた。

本研究は、以上の研究を承け、郭店『五行』に見いだされる三つの思想的特徴について、それがどのような論理によって一つの文獻としてまとまっているのか、思想構造を解明する。併せて、各思想の他文獻における状況を確認する。これにより、戦國秦漢期の傳世文獻に見える諸子思想との関連において、郭店『五行』の思想的特徴に関する新たな知見を獲得する。考察の対象となる諸子文獻は、『孟子』『荀子』『管子』『文子』その他である。

本研究は先ず、上記三つの思想について、その諸子思想における状況を考察する。その結果、諸子思想における専心内形論は、人知批判の思想と、無爲の統治論とを背景としていることを指摘した。次いで、聖智論については、それが人知批判を基礎に、対象の本質や価値を把握する高度な認識力の獲得を目指す思想であることを指摘した。そして、尊賢論については、特に「其人」という言葉に着目し、儒家の人治主義の立場から提示された思想について、『荀子』、中庸篇、『周易』繫辭上傳等の記載を確認した。また、道家の人知批判の思想がその思想形成に影響を與えていたことを確認した。

諸子思想に対する以上の考察を踏まえ、郭店『五行』の思想的特徴に関しては、以下の点が明らかにされた。まず一つに、専心内形論と聖智論との関係の特殊性である。郭店『五行』では、思いを専一にすることで徳性が顯現するという専心内形論は、「聖」「智」を獲得するための修養論として位置づけられる。一方、その「聖」「智」とは、対象の内在的な価値や意義を把握する高度な認識能力であった。こうした聖智論の思想内容と、それが専心内形論に基礎付けられるという思想構造とに、郭店『五行』の特徴が認められた。

次に、聖智論と尊賢論との関係の特殊性である。郭店『五行』の尊賢論は、法家の不尚賢の思想的核心である人知批判に対する反批判として、これを捉えることができる。即ち、郭店『五行』に見える「其人」とは、「聖」「智」をはじめとする「五行」を體得した「君子」であり、この「君子」であれば、是非の判断と適切な對處とが可能となると主張するものであった。要するに、郭店『五行』の尊賢論もまた、聖智論に基礎付けられている。こうした尊賢論の思想内容と、それが聖智論に基礎付けられているという思想構造とに、郭店『五行』の特徴が認められた。

本研究の研究成果は、戦國諸子思想における儒道法思想の形成と相互交渉の歴史的展開の解明や、いわゆる思孟學派の思想の具體的内容、及び歴史的展開の解明に関する研究に對し、新たな研究材料となる可能性がある。また、郭店『五行』に先行して出土した馬王堆漢墓帛書五行篇との比較研究に對しても、本研究の成果は有効な豫備的考察となることが期待される。

(2)、郭店楚簡『太一生水』の生成論(『中国出土資料学会』第22号、2016年7月)

本研究は、一九九三年に中国湖北省で発掘された郭店楚簡『太一生水』を研究対象とする。「太一、水を生じ、水、太一を輔け、ここを以て天を成す」と始まるこの文獻は、古代中国の宇宙生成論を示す新たな資料として注目されている。本研究の考察によれば、この文獻に見える「天地」「陰陽」「湿燥」「暑熱」「歳」等の概念は、ものの生成変化を促す運動原理であり、その思想的課題は、物質の形成過程ではなく、生成原理の遡及的追求にある。また、この生成論において「水」が言及されるのは、液体、固体、気体と様相を変化させる「水」の可變的性質が注目されたためであり、この生成論は、世界の生成を無から有の創成

ではなく、様相の変化、即ち相転換の生成として捉えるものである。また、従来知られていた『太一生水』の「太一」概念は、『老子』などに見える「道」概念の生成論と同様、生成の根源的物質や状態としての意味と、根源的生成原理としての二重の意味内容が担わされていることを明らかにした。そして、その両者に関する論理的整合性を確保した説明の可能性については、「道」概念よりも「太一」概念の方に優位性が認められることを指摘した。本研究により、宇宙の始原に関する古代中国人の哲学的思考力の特徴の一側面が明らかにされた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

西信康「郭店楚簡『太一生水』の生成論」、『中国出土資料研究』、査読有り、2016年7月、第20号、68頁-87頁

西信康「郭店楚簡『五行』と諸子思想」、『中国哲学』、査読有り、第43号、2015年12月、1頁-31頁

〔学会発表〕(計3件)

西信康「孟子の「忍びざる心」と功利主義批判」上廣倫理財団研究発表会、2017年12月9日

西信康「郭店楚簡『太一生水』の思想生成論と処世訓」北海道中国哲学会十二月例会、2016年12月21日

西信康「郭店楚簡『太一生水』の思想」中国出土資料学会平成27年度第1回例会、2015年7月23日

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西信康(NISHI NOBUYASU)

北海道大学・大学院文学研究科・専門研究員

研究者番号：30571062

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()